



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

川崎市 グリーンボンドの発行について

2021年7月 川崎市財政局資金課



川崎市による環境に向けた取り組みの実績

1960～1970年代	1994年2月	1998年	2004年	2006年	2008年	2010年
京浜工業地帯の中核として 産業の発展を牽引	【川崎市環境基本計画】を策定 (令和3年2月改定)	【川崎市の地球温暖化防止への挑戦】 地球環境保全のための行動計画】を策定	【川崎市地球温暖化対策地域推進計画】 川崎市の地球温暖化防止への挑戦】を策定	全国で初となる環境配慮型ミニ公募債 【川崎市緑化推進債】を発行	【カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略 (CCかわさき)】を策定	【川崎市地球温暖化対策推進】 基本計画を策定 (平成30年3月改定)

2020年11月

【かわさきカーボンゼロチャレンジ2050】を策定

【かわさきカーボンゼロチャレンジ2050】とは
・環境先進都市として、脱炭素社会の実現に向けた戦略を示し、気候変動への対応を先導する具体的な取組を実践するために策定するもの。

・2050年の脱炭素社会の実現に向けて、具体的な取組を位置付けるとともに2030年の中間目標地点として、現行計画の目標に加えさらに100万t-CO2削減に挑戦するマイルストーンを掲げている。



銘柄名称	第1回川崎市グリーンボンド5年公募公債
年限	5年（満期一括償還）
発行額	50億円
各公債の金額	1,000万円
条件決定日	8月を予定
払込日	8月を予定
主幹事	みずほ証券株式会社（事務、ストラクチャリング・エージェント） SMBC日興証券株式会社
適合性評価	第三者機関である株式会社日本格付研究所より、国際資本市場協会（ICMA）によるグリーンボンド原則2021 及び環境省グリーンボンドガイドライン2020 年版への適合性について評価を取得

- 政令指定都市“**初**”のグリーンボンド発行
- 参加投資家からの投資表明については、市HPにて公表予定

川崎市グリーンボンドのフレームワーク①

調達資金の使途

- 「エネルギー回収率（発電能力）の向上」「ミックスペーパー資源化処理による3 Rの推進」「水害リスクに対する地域防災力の向上」等の便益が見込まれるプロジェクトに充当予定
- 資金調達は全て債券発行により行い、調達した資金は全て新規のプロジェクトに充てられる予定

プロジェクトの選定基準とプロセス

- 充当事業は、川崎市の財政局財政部資金課及び環境局地球環境推進室が、各部局にヒアリングを行った上で選定
- 「エネルギー回収率（発電能力）の向上」「ミックスペーパー資源化処理をはじめとする3 Rの推進」「水害リスクに対する地域防災力の向上」等、環境面での便益が見込まれる事業を抽出し、適格性の検討を行うことで対象プロジェクトを選定
- プロジェクトの選定にあたっては、環境に与えるネガティブな影響についても確認した上で、財政局長が最終決定を行いプロジェクトを選定

川崎市グリーンボンドのフレームワーク②

調達資金の管理

- 市債管理表によって、事業区分ごと事業費、市債充当額等を記録し、充当プロジェクトと他の事業を区分して管理することで、グリーンボンドの調達資金を各充当事業に全額紐付け
- 調達資金は、当該年度中に全て対象プロジェクトに充当
- 年度終了後、充当プロジェクト名及び充当金額を取りまとめ、財政局長へ報告を行うことで、調達資金の追跡方法にかかる内部統制を確保
- 未充当資金は、充当が決定されるまでの間、川崎市の会計管理者が指定金融機関の預金口座において現金にて管理

レポート

- 資金の充当状況（充当プロジェクト名及び充当金額）、各充当プロジェクトの便益に関する情報を起債翌年度にHPで開示予定

調達資金の使途①

汚染防止及び管理エネルギー効率

橋処理センター整備事業

- 従来よりも有害物質の排出を削減し、かつ焼却時にバイオマス発電が可能なごみ焼却施設を整備
- 従来はごみとして処理されていた紙類についても資源化可能なミックスペーパー資源化処理施設を整備



橋処理センター整備イメージ



調達資金の使途②

グリーンビルディング / エネルギー効率

本庁舎等建替事業

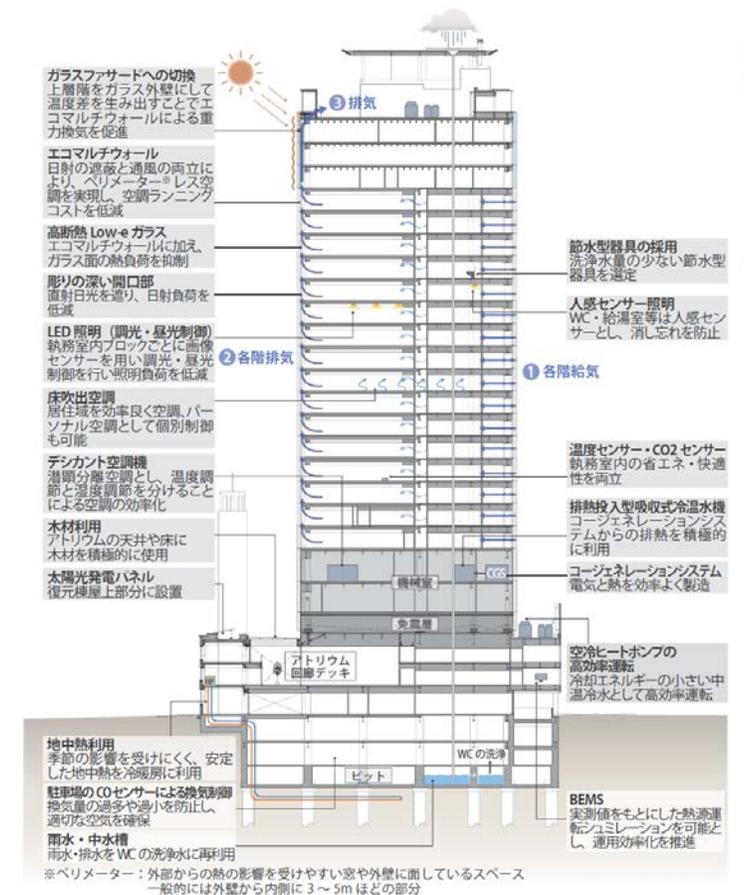
- エコマルチウォール(省エネ性能の高い外壁)やコージェネレーションシステム(発電機の排熱を利用する省エネシステム)を導入
- 建材として木材を積極活用
- CASBEEでランクSを取得予定



エネルギー効率

環境配慮技術導入事業

- 市施設照明をLED化



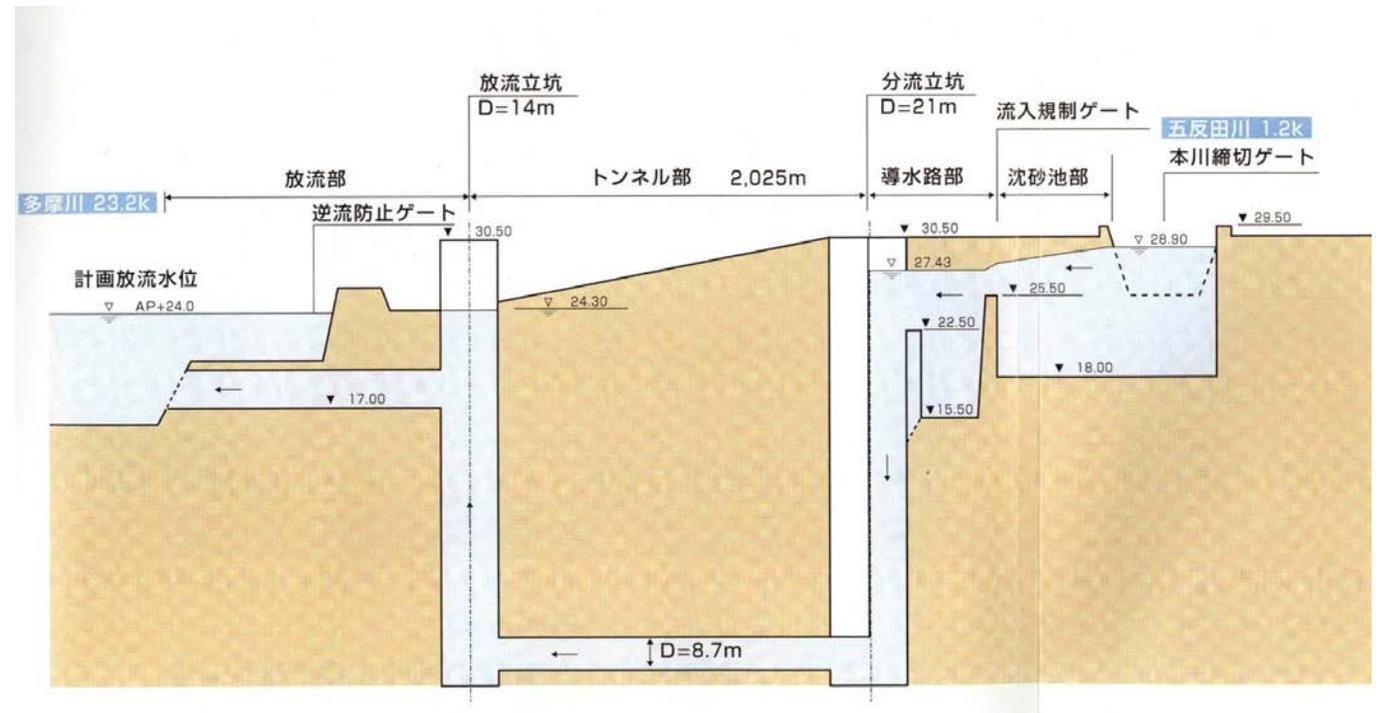
川崎市新本庁舎整備イメージ (左:概観 / 右:整備断面図)

調達資金の用途③

気候変動への適応 / 持続可能な水資源および廃水管理

五反田川放水路整備事業

- 五反田川の上流から多摩川に直接つながる放水路のトンネルを作ることで洪水被害を削減
- 分流立坑と呼ばれる洪水を放水路に引き込むための施設や土砂を沈殿させるため沈砂池、水を引き込むための導水路を整備予定



五反田川放水路断面図